

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年9月9日(2010.9.9)

【公表番号】特表2006-502229(P2006-502229A)

【公表日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2004-543576(P2004-543576)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/559	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/04	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 D	263/32	(2006.01)
C 1 2 N	9/99	(2006.01)
C 0 7 D	263/56	(2006.01)
C 0 7 D	271/10	(2006.01)
C 0 7 D	277/24	(2006.01)
C 0 7 D	277/64	(2006.01)
C 0 7 D	413/04	(2006.01)
C 0 7 D	417/04	(2006.01)
C 0 7 D	285/12	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/559	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/04	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 1 2
C 0 7 D	263/32	
C 1 2 N	9/99	
C 0 7 D	263/56	
C 0 7 D	271/10	
C 0 7 D	277/24	
C 0 7 D	277/64	
C 0 7 D	413/04	
C 0 7 D	417/04	
C 0 7 D	285/12	

A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の式：

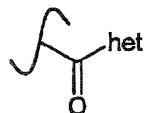
A - B - C

〔式中、Aは阻害サブユニットであり、Bは連結サブユニットであり、Cは結合サブユニ

ットであり、

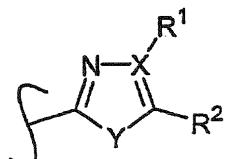
阻害サブユニットAは、脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害するための - ケト複素環ファーマコフォアであって、式：

【化1】



{ 式中、「het」は以下の構造：

【化2】

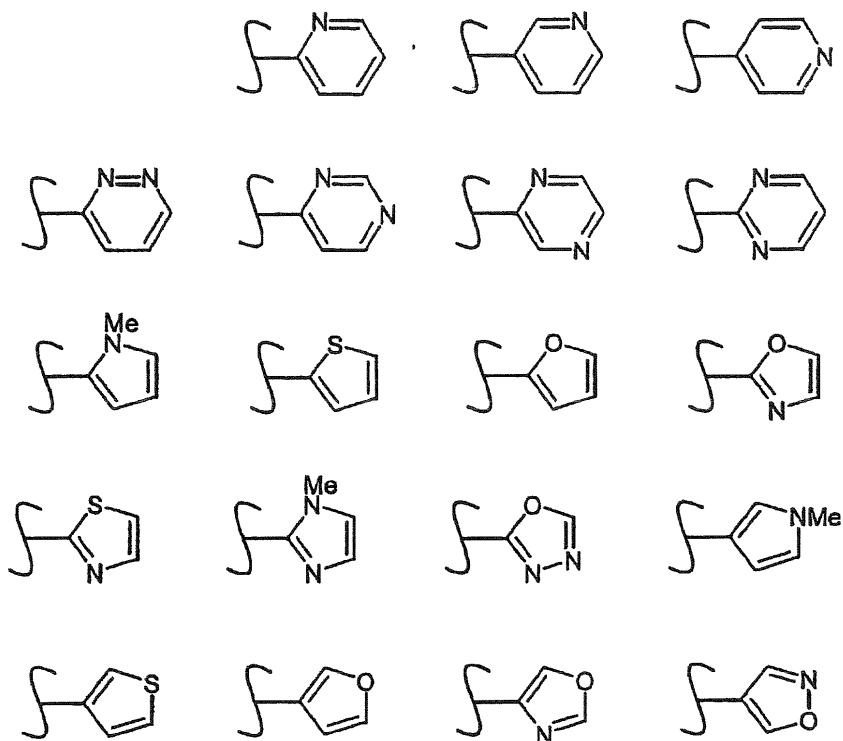


(式中、Xは、炭素および窒素からなる群から選択され、

Yは、酸素および硫黄からなる群から選択され、

R¹およびR²は、それぞれ独立に、水素またはヘテロ芳香環であるが、ただし、R¹およびR²の少なくとも一つが、ヘテロ芳香族環であり、Xが窒素である場合には、R¹は存在せず、該ヘテロ芳香族環が、以下の構造：

【化3】



のいずれかによって表される}である}

によって表される - ケト複素環ファーマコフォアであり、

連結サブユニットBは阻害サブユニットAと結合サブユニットCを連結するための鎖であって、かつ結合サブユニットCを脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にするための鎖であり、該鎖は炭素、酸素、硫黄および窒素からなる群から選択される3~9原子の直鎖状の骨格を有し、該連結骨格は第1の末端と第2の末端を有し、

該第1の末端はAの - ケト基に共有結合し、

ただし、前記鎖の第1の末端が阻害サブユニットAの - ケト基に対して - 炭素である場合には、 - 炭素は、任意選択的に、フルオロ、クロロ、ヒドロキシル、アルコキシ、トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択される置換基でモノ - 官能基化またはビス - 官能基化されており、

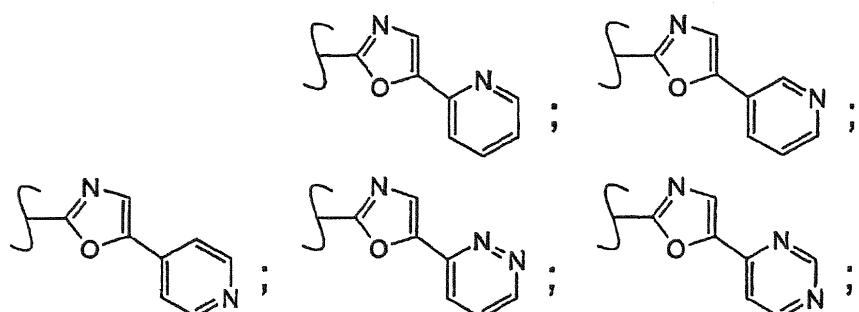
結合サブユニットCは、 - 不飽和を有する - 結合含有基であって、アリール、アルケニル、アルキニルおよび1つ以上のヘテロ原子を有してもよく、有さなくても良い少なくとも1つの不飽和を有する環構造からなる群から選択され、結合サブユニットCは連結サブユニットBの第2の末端に共有結合されており、前記 - 結合含有基内の - 不飽和は、互いに連続して結合される3以上で9以下の原子の配列でAの - ケト基から分離されている。】

によって表される化合物を有効成分とする脂肪酸アミド加水分解酵素の阻害剤。

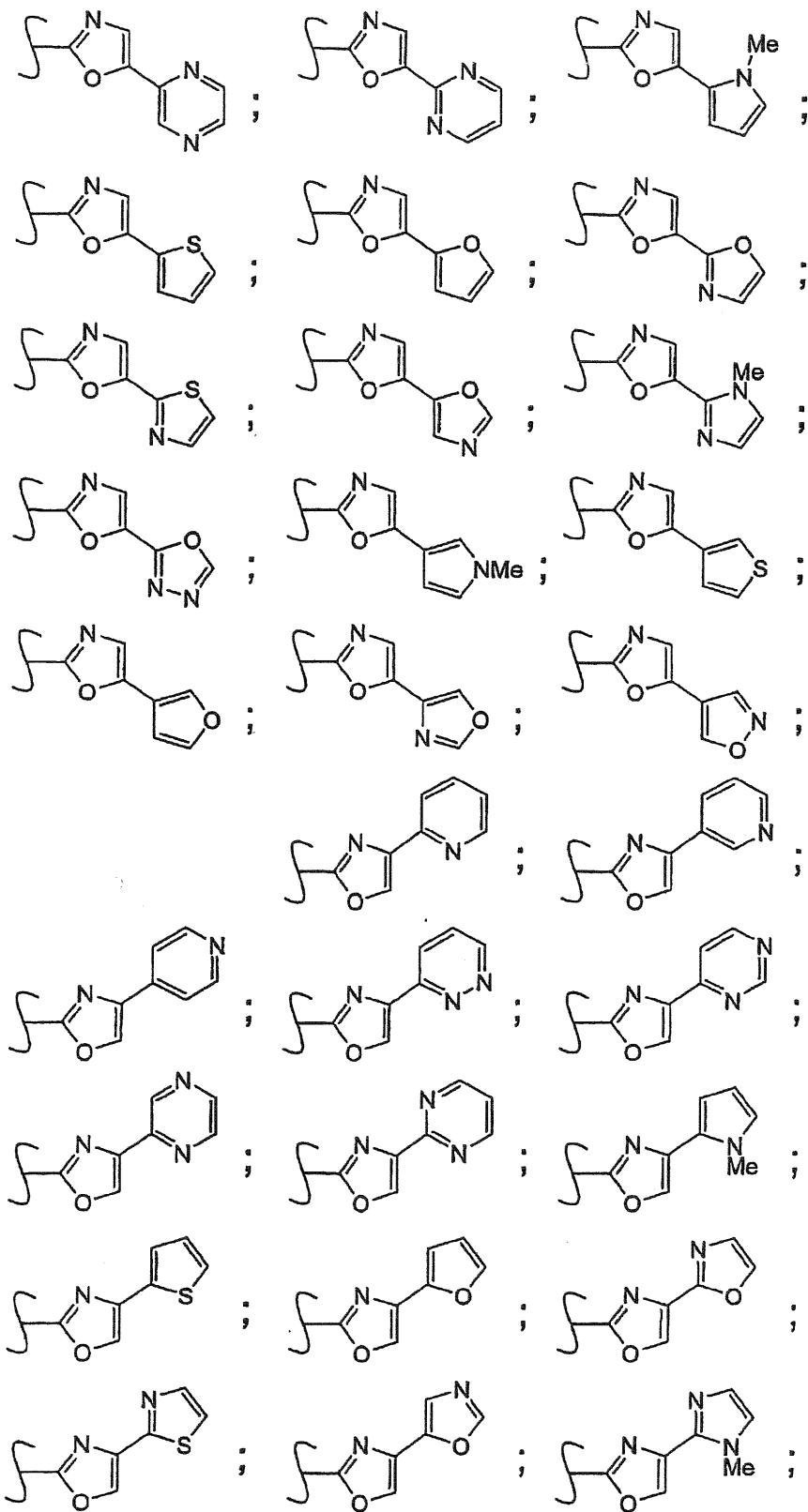
【請求項2】

前記式A - B - Cの化合物の - ケト複素環ファーマコフォアの「het」が、以下の群：

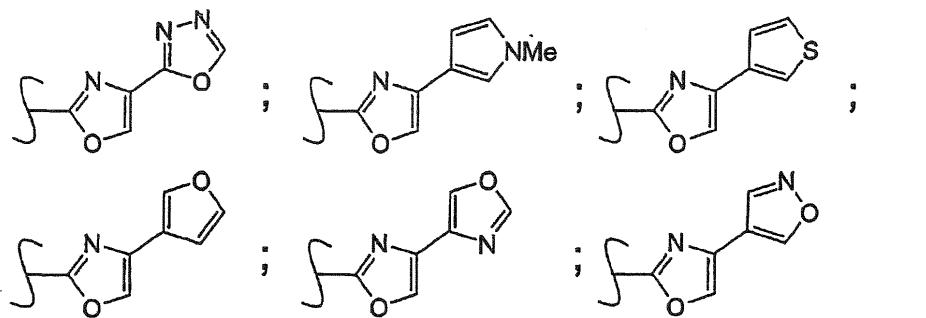
【化4A】



【化 4 B】



【化 4 C】

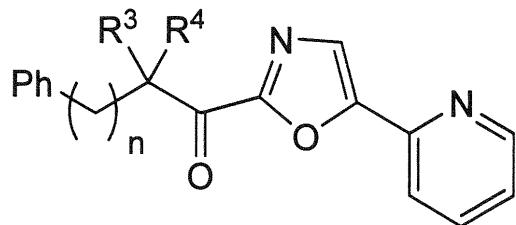


から選択される請求項 1 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【請求項3】

前記式 A - B - C の化合物が、以下の構造：

【化 5】



(式中、R³およびR⁴が、独立して、水素、フルオロ、クロロ、ヒドロキシリ、アルコキシ、トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択され、「n」が2～8の整数である)

によって表される請求項 2 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

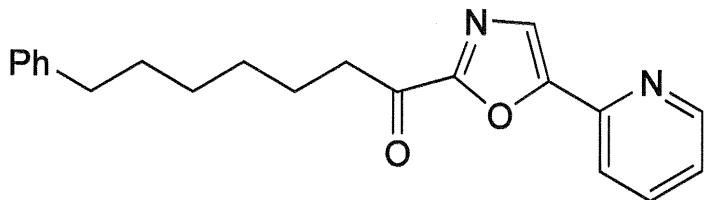
【請求項4】

前記Cが、アリール環である請求項1に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【請求項5】

前記 R³ および R⁴ が水素であり、前記 n が 5 である、下記式

【化 6】



で表される請求項 3 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 0 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

[0 0 0 8]

連結サブユニットBは阻害サブユニットAと結合サブユニットCを連結するための鎖であって、かつ結合サブユニットCを脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にすると同時に阻害サブユニットAが脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害するための鎖である。鎖は炭素、酸素、硫黄および窒素からなる群から選択される3～9原子の直鎖状の骨格を有し、連結骨格は第1の末端と第2の末端を有し、第1の末端はAの-ケト基に共有結合している。ただし、上記鎖の第1の末端が阻害サブユニットAの-ケト基に対して-炭素である場合には、-炭素は、任意選択的に、フルオロ、クロロ、ヒドロキシル、アルコキシ、トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択される置換基でモノ-官能基化またはビス-官能基化されている。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

結合サブユニットCは、-不飽和を有する-結合含有基である。結合サブユニットCは、アリール、アルケニル、アルキニル、および1つ以上のヘテロ原子を有してもよく有さなくてよい少なくとも1つの不飽和を有する環構造からなる群から選択される。結合サブユニットCは、連結サブユニットBの第2の末端に共有結合されている。阻害サブユニットAが脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害すると同時に、-結合含有基内の-不飽和は、-不飽和を脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にするための直鎖状の骨格を含めて、互いに連続して結合される3以上で9以下の原子の配列でAの-ケト基から分離されている。ただし、Cは、任意選択的に、C1～C10のアルキルである。